

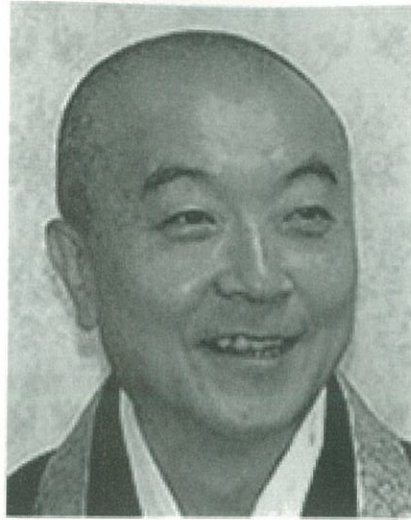


一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2016.4 春季号





一般社団法人 大日本武徳会



未来に向けての挑戦

代表理事
濱田 鉄心

私達は大日本武徳会の誇りある伝統に則り、その輝かしき栄光の歴史を保存継承し、先達の汗と血によって培われた武徳叡智の結晶を脈々と受け継ぐとともに、更なる飛躍発展がなされるようにいかなる事でも挑戦していく事が本会の未来発展への約束であると確信します。

平成二十八年度の定時社員総会並びに武道執行専門委員会で発表された本会の未来的な目的趣旨は四年前に法人化が達成された時に提示された内容と大きな差異は見られません。即ちこれらは本会の普遍的な課題であると言っても過言ではないでしょう。その大きな目的は定款・内規にも明記されているように 一・伝統武道の保存継承 二・青少年教育と育成 三・国際友好親善の促進と世界平和への貢献 四・国内における総合的發展と普及及び促進 五・本会の国際的發展とあります。

これ等一つ一つの目的は全て相互に関連し、どの項目も極めて重要です。会員一同一丸となってこれらの目的を貫徹する事に最善の努力をすれば大きな感動と充実した達成感が全ての人達と分かちあえるに違いありません。本年度四月二十八、二十九日開催予定の第五回世界

武徳祭・第五十四回全国武徳祭は二十カ国の国際部・本部参加者を含めて七百人の武道家が旧武徳殿に集結する大規模な大会行事となります。この大会は武道界のみならず国際文化や社会的な観点から内外の大きな関心を集めることになるでしょう。私達はこの重要な行事を成功させるために本会の誇りを持って最善の努力をしなければならぬと思います。その実現には会員全員の皆様のご協力とご賛同、ご支援が必要であることは言うまでもありません。

さらに本年度は九月十九日には第二十二回全国青少年武徳祭が予定されており、多くの青少年達が伝統武道の真髄を目指して交流し、励まし合いそして競い合います。単なる勝敗を決するスポーツ大会とは異なり遙かに次元の高い武道の奥深さを彼らは演武してくれるものと大きな期待が寄せられています。各団体長には最大のサポートを青少年に与えていただきたいと願うばかりです。この大会も成功させねばなりませんので、皆様方の多大な御支援とご協力をお願い致します。

そして十月十六日には第二十四回平安神宮古武道奉納演武大会が予定されており、平安神宮額殿において奉納演武される先生方の見事な技と気迫が本会の伝統としてこれからも受け継がれていかねばな

りません。

その他、本会では後援事業として七月三日の厳島神社古武道奉納演武大会、名城大学古武道演武大会、三月二十七日には住吉大社奉納演武大会などが実施されます。

未来への挑戦は常に襲古還新の哲理を熟慮しながら本会が個人、地域社会、日本、そして世界のために何が出来るかを考えると同時に、我々に出来る事、我々しかできない事、我々であるからこそ出来る事、然るにやらねばならない事、やるべきである事、等をこれからも良く考え共に実行していく事がさらなる次の挑戦を生み出す原動力になると思います。これは限界の無い永遠に続く未来への課題であると思われれます。しかしながらどのようなチャレンジでありましても本会の先生方各位と会員の皆様方と多くの賛同者各位のご賛同でもってすれば無限の可能性が広がると信じます。

この書面をお借りしまして、会員各位の皆様方のご協力に深くお礼申し上げますと共に本年度の本会の事業活動に際し精力的なご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。





一般社団法人大日本武徳会

第三回定時社員総会 及び
第六回武道執行専門委員会

開催日…平成二十八年二月七日(日)

場所…新・都ホテル(京都駅八条口)

第三回定時社員総会



第六回武道執行専門委員会



辻野正勝先生を囲む 特別懇親会





第二十三回

平安神宮古武道奉納演武大会

日時：平成二十七年十月二十五日（日）午後〇時三十分

場所：平安神宮「額殿」

主催：一般社団法人 大日本武徳会

第二十三回

平安神宮古武道奉納演武大会報告

藤井 正巳

平成二十七年十月二十五日(日)第二十三回古武道演武大会が平安神宮額殿にて開催されました。

良い秋晴れのすがすがしい天気で、少し肌寒い気温の中で執り行われました。午前十時前に、国際部フランスの武道家の人達と私達の数人で平安神宮額殿の準備に取り掛かり、フランスの人達のテキパキとした働きの助けもあり、作業を無事に終了しました。

定刻より少し早く神前に参加者が整列し、前の祈禱が終わるのを待ち、平安神宮拝殿での祈禱、玉串奉納等が執り行われました。

平安神宮額殿に戻り、検証委員の時間割等の説明があり、定刻より少し早く大会が開催されました。

「祓の儀」は教士八段 柳田邦治先生の素晴らしい演武で始まり、戸山流、神伝流等の先生方の見事な演武から、さらに国際部、一心無双流、二天一流等各流派に立派な先生方の演武が続きました。

途中の大会の進行状況は、順調で、写真撮影等に関しては、写真撮影禁止の看板(数カ国語で記載)の効果もあり、撮影は許可された人以外は、ありませんでした。

また、移動警備においても、トラブル等はなく、無事任務を果たしました。

「納の儀」では、範士八段 村田雅人先生の卓越した演武で第二十三回平安神宮古武道奉納演武大会は終了いたしました。検証委員の先生方や役員の方の先生方の努力もあり、時間通りまったくの狂いも無く無事に終了しました。

今大会は、様々な面において、多くの反省点がありますが、前年に比べてはるかに有意義な大会であり、今までの反省点も多く改善されていたのではないのでしょうか。

おわりに、大会の準備、進行等に携われた先生方の御協力に深く感謝し、一般社団法人大日本武徳会の今後の更なる発展と、各道場流派の先生方の栄進を祈念申し上げます。

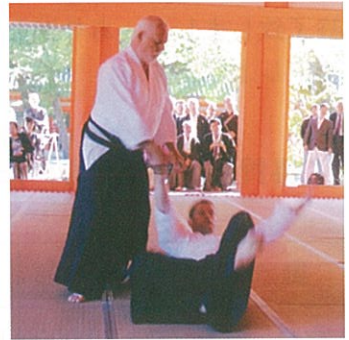
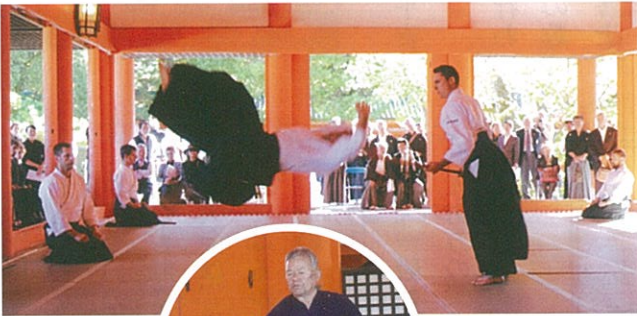
御礼の御挨拶

第23回平安神宮古武道奉納演武大会も皆様の多大なる御協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了致しました。ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

ご協賛及びお祝金をいただいた
個人及び団体 (順不同)

御芳名	金額	御芳名	金額
桑原 兵充 様	30,000	藤井 正巳 様	10,000
濱田 鉄心 様	20,000	石本 一平 様	10,000
竹田 豊 様	20,000	宮園 國男 様	10,000
中田 武太 様	20,000	拳 正 会 様	10,000
高田 寛次 様	10,000	平野 秀雄 様	10,000
川村 八朗 様	10,000		





(写真撮影：中田武太 その他)

第二十三回 平安神宮古武道奉納演武大会

大会進行委員長 目黒 信良

平成二十七年十月二十五日（日）晴天秋晴れのもと正午より平安神宮古武道奉納演武大会が開催される。

正午より平安神宮祈願参拝を済ませ午後一時額殿にて開会式・演武と進む。

参加三十七団体 百五十六名と前回より少なき感がありましたが、大会役員の先生方々の役割を把握された御働きにより進行も大分滑らかに進めることが出来ました事、感謝致します。

過去を踏まえ、法人理事の先生方々が理事会にて検討を加えられた良さが大会毎に改善されて来ており今回も四項目・その一に演武上の注意がキチンとプログラムに明記されし事・その二に検証委員のタイムテーブルが作成され各委員に手渡されし事・その三に演武プログラムの順番組み合わせが大分良くなり、各団体の会場割り振りがやり易くなりし事・その四に国旗 会旗が掲げられ、大会の格式が高められし事。

演武時間の決まりも参加の先生方に大分理解され、一・二の団体を除きほぼ時間通りに進行され良い傾向となつて来ておると思われます。

短い時間内で最高の演武を行う、これぞ武道の真剣勝負！緊張感の中に凝縮された技の披露は、見る側にしても息が抜けず双方息がピタ

りと交わる瞬間であると思われます。

尚、私個人的に関心を持つて拝見させていただいている居合演武で名前、男女の別は伏せませんが錬士の方の演武が、ここ数年回を重ねる毎に素晴しくなり、おそらく武道としての居合に高めるべき稽古をされておるのだろうと思われる節が見受けられ、今後御自身の中に武道居合として昇華されるものと期待をさせていただいております。

最後に私を省みますれば進行上の不手際が有りまして汗顔の至り!!
前向きに捉えて 自身に!! 喝!!

合掌



第二十三回 平安神宮古武道奉納演武大会

至誠館 渡邊 佳代子

すがすがしい秋晴れのもと、今年も平安神宮古武道奉納演武大会が開催されました。

この度、初めて管理運営委員会をお手伝いするご縁を頂きました。管理運営委員の任務は、大会が円滑かつ安全に開催されるよう大会委員、実行委員、進行委員の補佐として主に演武会場となる額殿ならびに額殿周辺の移動警備です。

武具の取り扱いには危険が伴うため、一般見学者や参拝者の多い境内では、指定の場所以外での練習を禁止しています。また、演武者の肖像権やプライバシーの権利侵害の観点から、演武される団体の関係者以外の撮影を禁止しています。

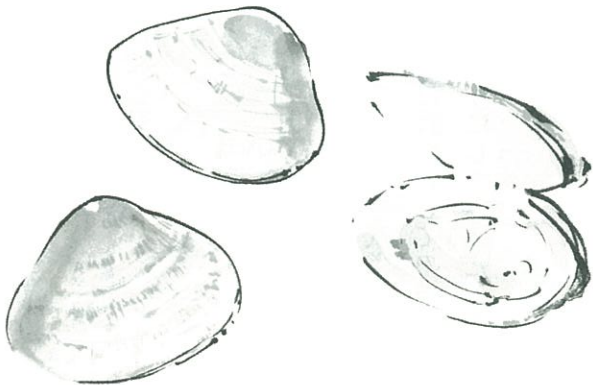
今大会は、事故の報告も無く、また「撮影禁止」の看板を掲げた結果、一般見学者の撮影する姿はほとんど見受けられませんでした。

進行では、随時、演武控えに二団体が待機するよう誘導し、大会は予定の時間どおりに進行し、終了いたしました。

遙々遠方から参加される先生方は、年に数回しかない他の道場の交流を楽しみにしている事と思います。私も今まで怪我する事なく、楽しく大会に参加させて頂きました。それは武道執行専門委員の先生方

が、検証委員として常に演武者の安全を見守る時間を作って下さっているお蔭であった事を改めて認識させられました。お天気は良かったものの検証員席は日陰で風が吹き抜け非常に寒く、検証中はコートを着ることもなく寒さに耐えながら見守って下さいました。中には、検証の控え席に来られない先生に変わって控え席に二名分の三十分座り、そのまま検証席で十五分と長時間に渡り座って下さった先生もいらっしゃいました。武道に対する姿勢である。と勉強させていただきました。

このたび、管理運営委員会をさせて頂きました事で、この大会が参加者全員によって支えあい、作られている事を知りました。これからは、一つ一つの大会に自分も作っている一員である。と認識しながら参加させて頂きます。ありがとうございました。





冬季青龍殿

因宝青不動明王奉納演武大会

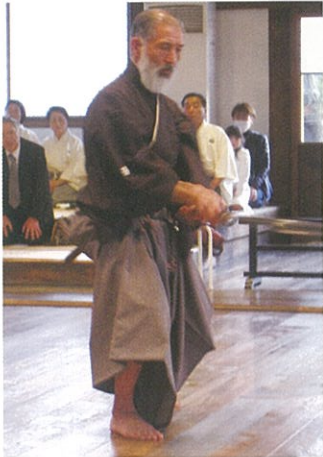
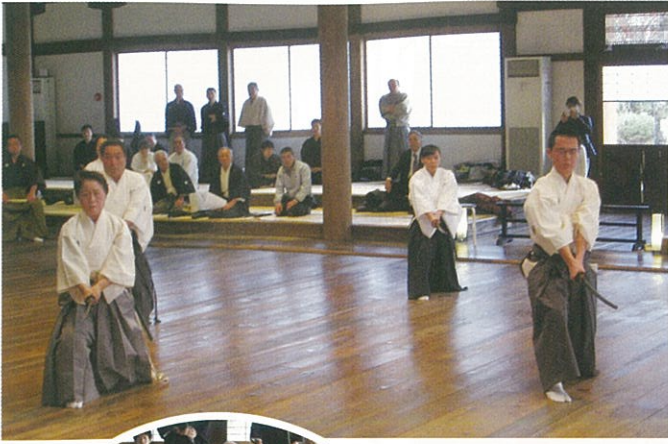
日時：平成二十七年十二月十二日(土) 午後一時

場所：青龍殿・大正武徳殿(將軍塚)

主催：一般社団法人 大日本武徳会







国宝青不動明王奉納 青龍殿 武道大会

平成 27 年 12 月 12 日土曜

京都東山 36 峯の名峰華頂山・京都盆地を眼下に一望できる青龍殿に於いて、
国宝青不動明王 奉納武道大会が
宗家先生諸賢のご奉賛を頂き盛大に開催できました、皆様に厚く御礼申し上げます。
当日は心配した夜来の氷雨も上がり、素晴らしい晴天暖い小春日和に恵まれました。

開催に先駆けて、青蓮院門跡・ご門主 東伏見慈晃猊下に依り、
一般社団法人大日本武徳会の発展
会員皆様方の平安・災障消除・諸縁吉祥・諸願成就を願い
国宝青不動明王を奉りご祈祷

80 余名参加者一人ひとりの氏名を挙げて秘法護摩供養を厳修頂き
燃え上がる護摩供の炎に青不動明王の尊影が眩しく輝きました。

青蓮院門跡 ご門主 一般社団法人大日本武徳会
総裁東伏見慈晃猊下に厚く御礼申し上げます。

奉納演武

(祓いの儀) 無双直伝英信流・居合道
範士八段 藤井 正巳先生の端正華麗な居合刀法に始まり。

(納めの儀) 双水執流・居合道
範士八段 伊藤 學先生の古武士を彷彿する豪快な術の納刀に至るまで。

風伝流槍術・・範士八段 中森茂範先生・長田順一先生の豪壮な長槍術を始め参加
各武種各流派の先生方は日頃の錬磨の術を奉献・青不動明王もご満悦のことと拝察。

一般社団法人 大日本武徳会
副総裁 桑原兵充



青龍殿国宝青不動明王奉納演武大会

高田 寛次

好天に恵まれ気温も差ほど心配することもなく、平成二十七年十二月十二日（土）青龍殿国宝青不動明王奉納演武大会が將軍塚山頂大正武徳殿に於いて開催されました。

長野・茨城・東京・千葉・石川・愛知・大阪・奈良・京都の各支部・各団体から七十九名が参加されての大会でありました。

参加された先生方には初めて経験される武道場であり、多少の不安を感じられたかと思いますが、旧武徳殿とはひと回り縮小された大日本武徳会京都支部道場として大正年代に建立された武道場でありましたが、永年に亘る風・雨・雪等或いは管理不十分等に見舞われ老朽も激しく、解体の域に達した物件を青蓮院が譲り受けられ將軍塚山頂に再現建立されたものであります。

午後〇時五十五分、全員が拝殿に座し青蓮院門跡門主東伏見慈晃殿下のお読経を戴き乍ら護摩供が執り行われ火焰と共に祈願致しました。

午後一時四十五分、全員が集合写真に納まり開会式・開会宣言後、藤井正巳先生の居合術「祓の儀」が演武され、各団体による演武が順次披露された、時間的な制約もあり各々演武時間は七分以内と制限されましたが、演武された先生方には全て制限時間内の演武を終了されました。

先生方それぞれの演武は大変素晴らしく、青龍殿に訪れた拝観者の外国人から wonderful・素晴らしい日本の武道を初めて見たと感激して居られたのが大変印象的だった。

納の儀「双水執流武尊会・東京」伊藤學先生の見事な演武を拝見いたしました、閉会式には、演武された先生方の個人宛にご門主から『奉修青不動明王護摩供心願成就祈攸』の御札を拝受致しました。

護摩供での安全と武道への上達を祈願された証が、奉納演武大会は想定の時間内に無事終了することが出来ました。

山頂での日暮れは早く眼下の街の明かりがチラホラ目にする風景は私たちの生活圏とは異なった風情を感じられ夜の帳が下りた眺めも一段とその夜景が美しく、函館・神戸等々の夜景にも匹敵するのではないのでしょうか。

本会の行事といたしましては、青龍殿国宝青不動明王奉納演武大会が平成二十七年の行事納めとなりましたが、一般社団法人大日本武徳会は、平成二十八年度の行事計画が既に案内されております、先生方には尚一層のご研鑽と併せてご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。

冬季青龍殿国宝青不動明王奉納演武大会に参加して

千葉一心無双流居合兵法 師範 村上 亨

平成二十七年十二月十二日（土）晴天の下、將軍塚、青龍殿・大正

支部だより

平成二十七年

大阪府支部武道研修会

開催さる

大阪府支部 村田 雅人

一般社団法人大日本武徳会大阪府支部武道研修会が平成二十七年十一月二十二日(日)、本部後援のもと、大阪住吉大社境内住吉武道館、剣道場、柔道場にて開催、参加者数は三十四名でございました。

住吉武道館の清澄なる雰囲気の中、まず、村田雅人支部長の開会の挨拶に始まり、特別のご参加を賜りました辻野正勝先生による書と詩吟の披露がなされ、ご高齢を感じさせない誠にはりのあるお声で花を添えていただきました。次に、一般社団法人大日本武徳会本部よりご臨席を賜りました副総裁桑原兵充先

生ならびに住吉武道館長森政暉先生よりご祝辞を賜りました。また、山本楠城先生には副支部長ならびに本部理事のお立場からのご出席をいただきました。また、特別参加として川頭隆義先生のご臨席をいただきました。

演武は佐野晃一先生の神田派虚心流居合による祓いの儀を皮切りに、桑原兵充先生、高島伸幸先生による心伝流柔術模範演武が為されました。いつものことながら、桑原兵充先生のご高齢を感じさせない入神の妙技ならびに高島伸幸先生の不即不離の立派な演武に襟を正す思いでありました。心より感謝申し上げます。次に、居合道の部に移り、村田雅人一門による無双直伝英信流居合を行いました。続いて、虚心流居合剣法を山本楠城先生、日本剣道形を山本勇先生、杉本安隆先生に演武いただきました。誠に気合のこもった素晴らしい演武でございました。次に、森内一蔵先生ご一門による神伝円心流据物斬剣法の演武が為されました。いつもながら神事による試斬は見事でご一門の錬度の高い居合に加え、今回は和の術もご披露されました。引き続き



追憶

安達 正純

安達學剣道十段範士から学び得たもの、本来、大日本武徳会県支部の支部長は、県知事閣下か、県警本部長が当たる、ということを知っていました。

私の祖父安達保正は武専の（武道専門講習所）の第二期の卒業生に当たり、終戦後昭和四十年のはじめ頃、安達が岡山で生存しているとの情報から京都武徳会へ呼び戻され、岡山支部の結成へと進んできました。古武道の竹内藤十郎（分家）先生のご協力を得ながら作られたものです。

まだ当時は、パージ（公職追放）で定職はなく、今というフリーターのような生活を送っていました。その家族を支えるべく、祖母も父も母も大人全員が稼ぎに出ていったものです。

父はその様な環境から小さな私達に、働かざるもの喰うべからず！と厳しい態度で接しておりました。又その様な時代背景があった様と思います。

祖父は元来、教育に係わっていた為に、「三つ子の魂しひ百まで！」

の仮に、保育園の設立を父の稼ぎ出した財を基に財団法人を興したものです。

これからの日本は、子供の教育にかかっていると、大きな期待と希望を求めていた様に思います。その祖父は、

「子孫に美田を残さず」といって、剣



道十段位を受領すべく、治療に病院に入りました。四月の天皇誕生日の武徳会の式典に合わせて、しかし、治療入院で肺炎をおこし五月下旬に帰らぬ人となりました。後を受けて、父學が替わりを務めました。今年八月三十一日急逝しました。

父は事業家として、武道家としての人への接し方は、正に八方美人的で己れに厳しく人には寛大である様に思いました。常に武道からヒントを得て、又、その直感力で進んでも退いても運の良い人間として長く信頼を得ていた様に思います。我々ではなかなか真似ることが出来ませんが数々の教訓を残してくれました。これを生かすも生かさな

一、よらば大樹の陰。

二、己れに喝、勝負に勝、事業に勝。

三、人より半足先に出よ。

四、動きは錨もとにあり。

五、働かざるもの喰うべからず。

六、己に厳しく人には寛大であれ。

七、この世で親とは仮の姿なり。

多々の教訓を残してくれましたが、全ての基礎根底にあるものは、剣道から得たものでした。又、先輩、先達より得た英知を実践活用したものです。

長きに亘り武徳会のスタッフ、会員の皆様方にご迷惑をかけたことと存じます。又、一方で愛されていたのかも知れません。

来るもの拒まず、去る者追わずの精神から多くのものを失い、又より多くのものを得たのだと思います。

今後の武徳会の一層の発展を願い、ご報告とさせていただきます。

平成二十七年十二月

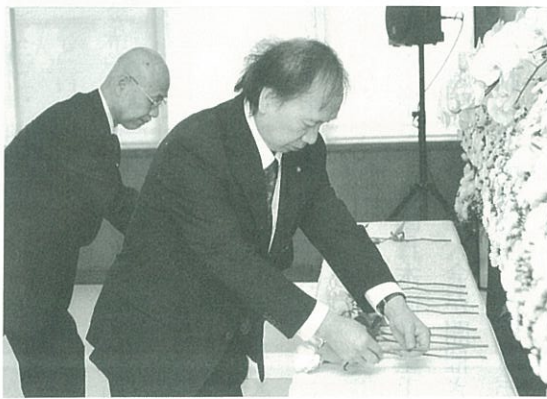
安達學先生のお別れの会に参列して

竹田 豊

平成二十七年十月十一日、濱田代表理事に同行して岡山県岡山市みどり保育園にて執り行われた安達學先生のお別れの会に出席しました。保育園内の広場に入ると左手に安達先生を偲ぶ数々の遺品が展示されていました。展示された写真の中には前総裁東伏見慈治様と御一緒のお写真もあり、武徳会関係の展示品がほとんどを占めていました。保育園の教室である会場に入ると、剣道範士十段安達學先生の眼光炯々、対戦相手に対応するかのような遺影が飾られていました。会場は、ご家族、ご親戚の方たち、保育園関係者や仕事関係者の方が多数参列されていました。

式典は、お別れの会喪主の安達正純先生のご挨拶から始まり、発起人代表者の弔辞、各代表者の弔辞へと続きました。弔辞の全てに大日本武徳会剣道範士十段を授与されたことの誇りを、生前まわりの人たちにお話されていたことを、うかがわせるお言葉が述べられていました。

お別れの会は肅々と進み、最後に参列者の献花に移り、お別れの会は幕となりました。



安達學先生は戦中の二十数年を経験され、そして戦後は保育事業や剣道を通じて、青少年の教育と育成に多大なお力を注ぎ、また事業の拡大を図り雇用の機会を提供し、生活の安定に寄与し、今日に至りましたと、ご子息正

純先生のご挨拶がありました。個人の幸せだけでなく社会全体の幸せが大事であるという気持は、長年の剣道を通じて心身の修練に努めることで出来上がった結果ではなからうかとも語っていました。

現役時代の安達學先生を御存知の先生方が数少なくなりました。大日本武徳会の一時代を指導していただいた安達學先生のご冥福を、改めてお祈り申し上げます。

